

# 第 34 号

2015年(平成27年)6月1日  
発行 岩国市議会

〒740-8585  
山口県岩国市今津町一丁目14番51号  
TEL (0827) 29-5190  
FAX (0827) 21-1001  
URL <http://www.iwakunishigikai.jp>

編集:いわくに市議会だより編集委員会  
印刷:フジ美術印刷株式会社

# ☆ いわくに 市議会だより



## わがまち 歴史めぐり

岩国市内各地の  
歴史・文化を  
シリーズで紹介します。

### ▲ うのちよ 宇野千代先生文学碑 (周東町)

宇野千代の実父は、明治初頭たかもり高森の中市宇野本家で出生し、成人後岩国の川西に一家をなした。千代は、その長女として出生したが、二歳で実母トモを亡くし、高森の本家で、幼少の一時期を過ごした。その後川西に帰った後も度々高森を訪れ、この町の風情をこよなく愛した。

周東町中市宇野本家敷地内に平成6年に建立されたこの文学碑には、「或る一人の女の話」の一節が刻まれている。

### ▶ ごようあん 歴代の五葉庵庵主の墓 (美川町)

五葉庵にちなんで小壁に伝わる昔話がある。いつのことか、小壁の部落で、子供の溺死が相次ぎ、猿猴のしわざと恐れられていた。そのころ、五葉庵にいた大変偉い和尚さんが、子供たちを救いたいと考え、寺の馬を使ってこの猿猴を捕まえた。猿猴は命乞いをし、決して悪さをしないと約束して帰された。その後、小壁の子供が水に溺れて死ぬことはなくなったという。



## 主な内容

3月定例会のあらまし ..... 2  
一般質問 ..... 3~7

常任委員会審査報告 ..... 8~9  
特別委員会 ..... 10

# 3月定例会のあらまし

総額706億8千万円の平成27年度の一般会計予算などを審議する3月定例会は2月26日から開催され、3月23日に全ての議案の審議を終え閉会した。

これまでで最も大きくなった平成27年度予算には市民の関心が高い大型事業の提案も多く、議員の審議も大いに盛り上がった。

6日から行われた一般質問は過去最高の28名が通告し、一日6名を超え7名という日も出たハードスケジュールで5日間という長丁場の論戦が展開された。

各議員の質問は多岐にわたり、新年度予算に係わる市長の施政方針・岩国市総合計画や基地問題、広い市域を反映した有害鳥獣対策などが目立ち、廃止される市営バスの今後を質す質問も多かった。

付託された各議案は4つの常任委員会で慎重に審議され、各委員長が審議経過

を報告した。

途中提案された岩国市職員の給与引き下げ案と国民健康保健条例改正案も併せ、この議会で審議された議案は報告1件、諮問1件、議案67件であった。

最後に、今国が進める「まち・ひと・しごと創生法」に対応した「地方創生総合戦略調査特別委員会」の設置が議員提出議案として提案され、9人の委員の配置と正副委員長が決まった。

また平成27年度予算審議の採決では、議員から市長が市政方針で示した基地との共存への疑問や、玖珂・周東総合支所統合問題で付帯決議の提案もあったが、審議には至らなかった。さらに、市職員の給与引き下げ議案で反対する議員の意思表示があり、採決されたが否決となった。

平成27年度はこの議会で決められた各予算や条例案をもとに、合併後十年の更なる歩みがこれからスタートする。



基地問題

米軍岩国基地の油漏れについて  
報告の第一義的責任は中四防にある

大西明子 (日本共産党市議員)

**問** 2月26日、日本共産党事務所にて平成27年1月20日KCC130の給油設備から大量の燃料が漏れる事故があり、長さ2800mの間に数ヶ所から、約15kg(ドラム缶75本)程度の燃料が漏れ、広範な土壌汚染、海洋汚染の恐れがある。再工事まで10ヶ月程度、数十億円かかる。との告発があった。

県議会で日本共産党の藤本県議が3月3日、事故の内容について質問している。岩国市は市民にも議会にも何も報告していない。何故、報告しなかったのか。対応について質問する。

**答** 基地外への流出がなく、住民生活への影響がないと判断した。事故の報告の第一義的責任は中国四国防衛局にある。(基地政策課)



3月定例会では、28人の議員が登壇しました。地方創生、バス事業など71項目にわたる質問が展開されました。

世界遺産

錦帯橋の世界文化遺産について  
暫定一覧掲載準備を着実に進める

片山原司 (新和会)

**問** 錦帯橋の世界文化遺産暫定一覧表に掲載する具体的方法について問う。

**答** 文化庁の示す課題については「錦帯橋世界文化遺産専門委員会」において調査研究を図り、中間報告的などとりまとめとなる論文集の作成を含め着々と整理を進めている。方法のひとつとして岩国市において、地元熱意や協力が不可欠であるので、岩国市、山口県、錦帯橋を世界文化遺産に推す会などの関係団体との協働と住民との連携は最重要と考え、推進体制を構築し、積極的な取り組みを図る。

現状では、数年先に国による次の動きが予想されるため、その準備を着実に進めていく。(観光振興課)



桜の錦帯橋

地方創生

地方創生で中山間地域の活性化を  
総合戦略を策定する中で検討

石原真 (清風クラブ)

**問** 人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し、各地域がそれぞれの特徴を活かした社会を創造できるよう、「まち・ひと・しごと創生法」が施行された。今後、市として総合戦略を策定することとなるが、その中で中山間地域の活性化を図る施策が重要であると思うがいかがか。

**答** 地方創生では、農林水産業や観光等サービス業の潜在力をどのように伸ばしていくかが重要であり、担い手確保や育成、6次産業化の推進、地域ブランドづくりへの支援など、中山間地域の実情に沿った取り組みを総合戦略を策定する中で検討していく。(政策企画課)

地方創生

交付金による地域消費喚起の取り組み  
7月にプレミアム付き商品券発行

越澤二代 (公明党議員団)

**問** 消費者の購買意欲を拡大し市内商店の活性化のため、一定割合の上乗せによるプレミアム商品券を、特典や上乗せ割合で地域格差があるが、多くの自治体で検討している上乗せ率をどうするのか、発行時期をいつにするのか、地域ごとの創意工夫が問われている。岩国市の取り組みは。

**答** 緊急経済対策のため、できるだけ早い実行がもたれている。協議会等で最終決定するが、上乗せ率はおおよそ2割程度とし、時期としては7月ごろプレミアム商品券を発行予定。子育て支援については、いわくに子育て給付金としては4月より第一子から出産した世帯に祝い金を支給する。(政策企画課)

下水道事業

錦見4号雨水幹線事業について  
 錦見・岩国地区の浸水被害は軽減

細見 正行 (市政クラブ)

**問** 錦見・岩国地区の地域住民を大雨による水害から守る！この地区は地形的特性から、たびたび強い雨が降ると浸水被害が発生している。錦見ポンプ場の整備や雨水幹線整備を実施してきているが、残る錦見4号雨水幹線・JR西岩国駅西側辺りの整備計画についてお尋ねする。

**答** 今年2月からJRの軌道の移設工事に着手している。今後はJR西日本と岩国市で工事を進めて、整備完了は平成28年12月末となる見込である。この事業が完了すれば、錦見・岩国地区の浸水被害は軽減されるものと考えている。  
 (下水道課)

自主防災組織の現在の状況について  
 防災講話・防災研修会を開催する

松本 久次 (憲政会)

**問** 組織の高齢化や、自治会長(リーダー)が1年で交代するなどにより、組織の機能・維持がでない地域があると聞く。組織の立て直しは積極的な行政指導が必要である。

組織の現在の状況と問題について伺う。  
**答** 地域によっては活発な活動実績により、成果をあげている組織もある一方、高齢化に伴うリーダーとなる後継者の不足や、地域コミュニティ意識の希薄化で防災組織の活動が停滞している。

今後は組織強化を図るため、防災講話や防災研修会を各地域で開催し、自主防災組織の育成に取り組んでいきたい。  
 (危機管理課)

河川復旧

南河内地区河川の被災部復旧について  
 平成27年度中に工事完了の見込み

山本 辰哉 (清風クラブ)

**問** 南河内地区において、昨年8月6日の豪雨で多くの河川施設が被災したが、今後の本格的な復旧工事について見解を問う。

**答** 昨年の豪雨で発生した南河内地区の護岸崩壊や河床洗掘等において直ちに緊急措置を講じて2次災害防止に努めた。今後、本格的な復旧工事として、国の補助を受けた公共土木施設災害復旧工事を発注しており、被災した河川施設の大部分については平成27年度末には復旧工事が完了する見込み。

堆積土除去については、周辺の浸水実績等を踏まえ優先度を検討して鋭意実施する。  
 (河川課)

玖珂・周東総合支所建設に向けて  
 市の方針に沿って取り組んでいく

植野 正則 (新和会)

**問** 総合支所建設については、一昨年より定例会毎の一般質問で玖西地域の中心である千束地域への建設を要請しているが、執行部は現周東総合支所を統合後の総合支所とすることを主張している。このことは、市民に目線を合わせることもなく地域の願いや想いに沿ったものではない。また、玖西地域在住の市議会議員連名で市長に提出した要望書においても、両町の市民の心を一つにして地域の発展を図るためにも千束地域が候補地として最良であるとしている。

**答** 市の方針に沿って総合支所統合が実現できるように取り組んでまいりたい。  
 (総務課)

バス事業

市営バス廃止後も市民の足確保を  
 敬老バスは継続、サービス確保へ厳しく指導

田村 順玄 (リベラル岩国)

**問** 77年間続いた市営バスが3月末で廃止になる。若国市民の足として便利に利用された市営バスだが、お年寄りなど交通弱者には市営バスは市民の大切な移動手段だ。

市営バスの完全廃止後はいわくにバスに引き継がれるが、今後も公共交通の理念を大切に、市民の足としてバス事業を保証出来るか。

**答** いわくにバスは民営化で採算性や効率性を求められることは止むを得ないが、市が全額出資した会社である。今後も公共交通の理念を大切に、これまで続けてきた敬老バスや福祉バスは継続するし、利便性やサービス低下に繋がらないよう今後も厳しく指導する。  
 (交通局)

玖珂・周東総合支所建設について  
 地域住民への周知と理解に努める

重岡 邦昭 (市民クラブ、草の根)

**問** 玖西地域総合支所建設計画についての課題であるが、由宇町は人口8千6百人で一つの総合支所、美和・本郷町は人口5千2百人で一つの総合支所、錦・美川町は人口4千人で一つの総合支所設置となっている。現計画では周東・玖珂町人口2万4千人に一つの総合支所を建設とのこと。人口規模からして1万1千人の玖珂町・1万3千人の周東町に各総合支所が必要ではないのか、また、玖珂町民1万1千人を玖珂支所職員15人程度で行政サービスを行えるのか疑問である。市長の考えを聞く。

**答** 基本構想がまとまった時点で地域審議会に説明、また、地域住民への周知と理解に努めてまいりたい。  
 (総務課)

総合支所

総合支所

交通弱者対策

新たに発生した交通弱者対策を問う  
あらゆる生活交通手段を検討する

広中 信夫 (憲政会)

**問** 岩国市交通局の廃止及び民間バス会社の経済的理由によるダイヤ改正に伴い、新たな交通弱者が発生した。特に御庄・柱野・北河内・南河内の自家用車を活用出来ない高齢の方々は、大変不便を感じておられる。このような地域の方々が交通弱者として取り残される事のないようその対策を問う。

**答** 今後岩国バスや防長バス等に対し、次回のダイヤ改正検討時に改善の要請を行う。併せて、これまでの生活交通バスの手段の手法や新しく導入するグループタクシー制度等の活用でこの地域の方々への対応策を検討していく。  
(政策企画課)

公園整備

中山湖畔農林公園の整備について  
公社より買い戻し後に計画をたてる

渡辺 和彦 (市政クラブ)

**問** 旧周東町時代にゴルフ場開発計画の頓挫に伴い、旧周東町土地開発公社が取得した177ヘクタールの山林用地について、利用計画と整備計画の進捗について問う。水源涵養上の必要性を考えた市民の憩いの場としての整備を望む。

**答** 用地については新年度開発公社より市が買い戻しを行う。今後具体的な活用策については、周東町時代に中山川ダム農林公園基本計画を策定した経緯を踏まえ、水源涵養機能の維持、自然環境の保護の観点から、現状山林の保全を柱として、活用策を進めていく。  
平たん部においては、地域活性化を視野に現況地形を生かし、どのような整備が可能か検討していく。  
(周東総合支所・農林建設課)

認知症カフェ

認知症高齢者への地域支援は  
さまざまな集いの場の拡充を図る

中村 豊 (公明党議員団)

**問** 自宅に引きこもりがちで認知症高齢者の方が社会と繋がる居場所である「認知症カフェ」等は、地域の中で認知症の知識を普及させ、住民同士が支え合う重要な場所である。本市の取り組みを問う。

**答** 認知症高齢者の家族会の支援、相談等も含め、「ふれあいいきいきサロン」の活動支援に取り組んでいる。認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていることが出来る。地域づくりに取り組みしていく。高齢者が集う場所等の情報を一覧表やマップに表示し、さらなる情報発信を行っていく。  
(介護保険課)

災害対応

自然災害対応制度の創設について  
対応できる制度を創設する

藤本 泰也 (憲政会)

**問** 12月の議会でも質問しているが、昨年8月6日の豪雨災害では、市内各地に土砂崩れや浸水等の甚大な被害をもたらすし、民間住宅内に流入した崩土、土砂の撤去等、市で対応してくれないかとの多くの相談があった。梅雨時期までには対応するべきと考えますが、市として対応できる制度の創設についてその後のどのように進めているのか。

**答** 今年度中に条件等をまとめ、制度を創設し、新年度から対応できるようにしたい。  
(危機管理課)

維新150年

維新150年への対応策は  
東沢瀉の業績も全国発信

前野 弘明 (市政クラブ)

**問** 昨年は激動の年、今年は正しい道しるべをもって煩雑なことを整理しなれば以後面倒になる年。日本は和で治めてきた国、今世界平和のために活躍すべき摂理国家になっている。大きな変わり目の幕末には陽明学があった。明治維新150年を機に、平成の維新を成功に導くためには、東沢瀉の存在はもつと評価されるべきだがどうか。

**答** 教育者「沢瀉」の功績を広く市民に周知、業績を再評価し、全国に発信していきたい。  
(政策企画課)

バス運行

住民アンケートを受けての今後の対応は  
3月からの協議会で方向性を検討

河合 伸治 (公明党議員団)

**問** 26年9月議会では、12月に住民アンケートを実施し、本年度中に方向性を決定したいとの答弁があったが、高齢化が進む中、玖西地域から医療センター行のバスの運行は住民の皆様待ち望まれている。期限であるこの3月に住民アンケートを踏まえて市の方向性をお聞きする。

**答** アンケートでは直通バスがあればよいが110件、岩徳線のサービス低下は困るが112件と均衡しており、3月からの再生協議会で需要予測も踏まえて検討してまいりたい。  
(政策企画課)

児童養護施設

**問** 連口のように児童虐待はじめ、児童の痛ましい事件が発生している。こうした事件の未然防止、社会的養護を必要とする児童に対し、生活の場の提供が必要。本市には、児童養護施設や乳児院等の養護施設がなく設置が急務の課題である。(所見を伺う)。

**答** 児童養護施設等は、児童のみならず、悩みを抱える保護者にとっても専門的な相談や支援の場となり、虐待等の未然防止に繋がる。施設の設定・認可は県の判断になるが今後、県と積極的に協議を図りながら場所や時期等も含め、できるだけ早期に検討を行い、児童福祉の環境整備を進めたい。(こども支援課)

桑田 勝弘 (公明党議員団)

児童養護施設の設置を  
施設養護の必要性を理解

斎場整備

**問** この度の若国市斎場整備基本計画(案)では、現在ある7斎場の内3斎場を3年以内に廃止するが如き、誤解を与えてしまう表現であると思うが、見直しては如何か。また、玖北地域においては、過疎計画に基づく再配置を検討すべきと思うがその所見を伺う。

**答** 誤解があるようであれば、パブリックコメントの意見も参考にしながら、慎重に文言の修正等も考える。また、今後、新設等も含めた再配置計画を作成するときには、過疎地域自立促進計画にも斎場整備の位置づけを検討する。(環境保全課)

片岡 勝則 (新和会)

斎場整備基本計画(案)について  
将来的に再配置を図る

バス事業

**問** 4月1日からいわくにバス(株)が運行することになるが、運休が多く市民に不便をきたしている。若国市は将来にわたり、バスサービスを市民に、安定的、継続的に提供できる体制を構築するとしているが、「いわくにバス」は、基本給が16万1千円と安く、運転士を募集しても応募者がいないと聞く。対策を求めます。

**答** 運転士の募集に全力を挙げ、若国市は市民の足を確保するために「若国市バス事業運営検討協議会」を設置し、バスサービスが地域の実情に即し、安定的、継続的に提供できるよう、バス利用者の立場からバス運行等について協議、検討を行っていく。(交通局)

山田 泰之 (日本共産党市議員団)

「いわくにバス」の運休対策を求め  
運転士の確保に努め、安定的な運行を行う

市歌

**問** 合併時の「慣行の取り扱いについて」において、「市章、市民憲章、市の木、花、歌等は新市において新たに定める」ことが確認されている。これまでに、市歌以外は全て制定されている。市民の一体感や郷土愛を醸成するうえで大切な市歌は未だに制定されていない。どのように考えているのか伺う。

**答** 来年度、合併10周年を迎える。その節目の事業として市歌を制定するとしている。市歌が完成すれば、CD並びにピアノ用の楽譜を作成し、各種イベントや学校での活用、本庁や、総合支所等では市歌を流すなど、周知・理解の促進に努めてまいりたい。(総務課)

長 俊明 (清風クラブ)

市歌の制定について  
市歌を制定することを決定

消防本部跡地

**問** 消防本部の愛宕山移転後、その跡地利用の計画はあるのか。

**答** 今津町にある消防庁舎及びその敷地は若国市の所有するもので、若国地区消防組合に無償貸与している。愛宕町へ庁舎移転後消防組合から若国市へ土地・建物が返還される。現時点では移転後の跡地利用計画は特に定まっていないが現庁舎は耐震基準を満たしておらず現状のまま使用はできない。来年度以降、公共施設等総合管理計画を策定し、その中で消防庁舎の取り扱いに関することも含めた跡地利用計画について検討していく。(危機管理課)

貴船 斉 (新和会)

現消防本部の跡地利用について  
来年度以降に検討していく

少子化対策

**問** 少子化が進行している要因はさまざまであるが、その中でも重要な一つに晩婚化・未婚化の進行が挙げられる。背景に相手と出会う機会が少ない、必要性を感じない、結婚への価値観の変化などがある。若い世代が期待を持ち結婚を決意するために側面からの支援が第一義的に必要と考えるが、本市としての婚活支援による取り組みについて伺う。

**答** 市としては、「やまぶち子育て県民運動」の一環として、「やまぶち結婚応援団」の方々の活動に対し、若国市総合戦略を策定する中でも検討していきたいと考えている。(政策企画課)

丸茂 郁生 (清風クラブ)

婚活支援による少子化対策を  
総合戦略の策定の中で検討する

斎場整備

**問** 3月1日の市報にあった斎場整備基本計画(案)のパブリックコメントの募集方法が分かりにくかった。については関係する地域の方に分かりやすい資料を配布し、多くの市民の意見を聞く必要があると思う。また斎場が整理される地域で説明会の予定はあるのかを問う。

**答** 岩国市全体の計画で特定の地域の市民の意見をいただくものではなく、また一般的な募集方法をとっているため御理解いただきたい。今現在は説明会の予定はないが、自治会などの要望があれば説明に伺うつもりである。

(環境保全課)

広中英明

(市民クラブ 卓の根)

**自治会などの要望に答え説明していく**

総合支所

**問** 玖珂が支所になれば職員が減り、課や係も減り、総合性を失う。  
所長の決裁権限は500万円から130万円に格下げされ、しかも決裁を周東から本庁に上げるから、住民と市民のパイプは細く、長くなる。災害時の即応能力も大幅にダウンする。  
玖珂はきめ細やかな行政で人口が増えた。玖珂・周東のそれぞれ個性を育て、玖珂の魅力を高めるまちづくりを目指すべきであるが、執行部の見解を問う。

**答** 財源と人員が限られ、統合は避けられない。玖珂・周東を一体として地域が連携しながらまちづくりを進めてまいりたい。

(総務課)

小川安士

(日本共産党市議団)

**総合支所統合は避けられない**

個性的まちづくりで人口増やせ

教科書

**問** 現在、岩国市立の中学校で使用されている、育鵬社の歴史教科書について他社全ての教科書に書かれている常識的な事項が載っておらず、高校入試に対応できない。と現場の先生から批判されている等と書かれたチラシが出回っているが、教育委員会はこの件につき、どのような見解であるか。

**答** 先般行われた公立高校入試の社会科の問題と照らし合わせ、専門家に調べてもらったが、そのようなことは全くなかった。(学校教育課)

石本崇

(憲政会)

**そのようなことは全くない**

育鵬社の教科書は入試に対応できない?

スポーツ振興

**問** スポーツは子どもから高齢者まで、全ての人々が自分の状況に合わせて親しむ事が重要。特に高齢者・障がい者スポーツ推進には指導者養成が大切だが現状について問う。

**答** 現在高齢者・障がい者スポーツ指導者の育成は十分とは言えない。  
今後、高齢者・障がい者に限らずスポーツ全体を振興していくことが責務と考える。そのため、高齢者や障がい者当事者、スポーツクラブ、スポーツ協会と連携が図れるよう、指導者養成や、環境整備に努めて行く。

(高齢障害課・スポーツ振興課)

三原善伸

(親政会)

**スポーツ振興への取り組みについて**

スポーツ全体の振興を一層促進する

学校給食

**問** 平成29年9月にテクノポート周東に新設される給食センターから由宇地域の4校並びに小瀬、藤河、御庄等6校にも給食を運ぶとの事。由宇町の給食施設が十分使用出来る状況で何故そうなるのか。避難場所となっている学校だからこそ自校方式が必要。加えて地域の伝統食や食文化を伝承することが食育でもある。新設センターからの配送時間を尋ねる。

**答** 老朽化した、玖珂周東のセンターを統合するとともに、周辺地域の学校に安心安全な給食を安定的に継続するために、配送時間は玖珂周東で10分程度、最も遠い由宇町神東小で53分程かかる。

(学校教育課)

坪田恵子

(日本共産党市議団)

**玖珂周東の給食施設建設について**

3千食が提供できる施設となる

福 田 市 政

**問** これまでの福田市政は、従来型の岩国市建設計画に基づく施策ばかりで、自らが企画立案し完結に至った事業が見当たらない。今回、「夢をかたちに」をスローガンに掲げる市長に2点の提案をする。  
まず、岩国駅周辺の再開発として第三セクターによる土地買い上げを行い、商と住を組み合わせた人口2万人増の都市計画と、旧国病跡地に地域医療を支える志の有る若者を集め、医科大学を全国に先駆けて創設する事。以上2点を地方創生を含め提案する。

**答** 岩国市民の皆様や議会とも協議しながら対応してまいります。(拠点整備推進課・政策企画課)

阿部秀樹

(憲政会)

**岩国市の重要施策と福田市政の実績**

市民や議会の意見を聞き対応する

議案第11号 平成27年度岩国市一般会計予算

問 27年度より、空き店舗活用奨励事業費補助金が中心市街地のエリア全体に範囲が拡大されることになるが、補助対象となる要件に変化があるのか。また、開店される方及び不動産業者へ制度をよく周知することや創業支援にシフトしていくことを考えているか。

答 対象要件については、従来の規則を新しい規則のほうでも踏襲しようと考えている。  
27年度から、創業支援や支援事業を展開していく予定であり、市報や関係者の方々にも協力をさせていただいて、制度の周知をしていきたい。また、まちなかリニューアル事業等について説明会を開くなどして不動産業者とも連携を図っている。

問 鵜飼事業及び遊覧事業は、観光振興に有望であり早期の再開が望まれるが、今年の予定はどう考えているか。

答 昨年7月30日の事故を受け、事業にかかわる全ての者が安全最優先の意識を持ち、再開に向けての研修、試験等、現在、順調に実施をしている状況である。警察の事故原因の検証結果が出ていないため、現時点では事業再開の時期については明確には言えないが、早めの対応を行いながら早期に事業が再開できるような体制もつくりていきたい。

結果：全会一致で可決

その他、経済常任委員会に付託された事件は、全て全会一致で可決すべきものと決しました。

経済

- 委員長 藤本 泰也
- 副委員長 桑田 勝弘
- 委員 阿部 秀樹
- 片岡 勝則
- 坪田 恵子
- 松川 卓司
- 三原 善伸
- 山本 辰哉



岩国れんこん  
マスコットキャラクター  
はあすちゃん

議案第11号 平成27年度岩国市一般会計予算

問 民生費の障害者福祉費の障害者支援のヘルプカード導入に向けての取り組み状況について問う。

答 申請すれば、来年度すぐに発行できる体制である。発行枚数は2000部を見込んでいる。

問 平成27年度において、放課後児童教室の保育料が500円の値上げになる。岩国市は「子育てするなら岩国で」というスローガンを掲げているのに、この値上げはどうしても行わなければならないのか。

答 保護者の方に、負担以上の満足をいただけるような市民サービスにも取り組んでいく。

結果：全会一致で可決

その他、教育民生常任委員会に付託された事件は、全て全会一致で可決すべきものと決しました。

教育民生

- 委員長 大西 明子
- 副委員長 武田伊佐雄
- 委員 片山 原司
- 桑原 敏幸
- 中村 豊
- 広中 英明
- 丸茂 郁生
- 渡辺 和彦



くらかけじょう  
鞆掛城まつり  
マスコットキャラクター  
くらたか  
鞆隆くん





**議案第11号 平成27年度岩国市一般会計予算**

**問** 衛生費のごみ焼却施設建設事業費の入札価格が高い事業者が落札者となっていることについて市民にわかりやすく説明してほしい。

**答** 業者選定方式については環境省が定めている入札契約の手引きにおいても技術力と価格を総合的に評価して落札者を選定する総合評価落札方式を基本とすべきとされており、市民の生活環境を確保する、より優れた施設を建設し運営管理していくということからも、総合評価落札方式を導入し、業者から提出された技術提案書に対する技術評価点と入札価格による価格点を合計し、総合的に評価して、落札者を決定した。

技術提案書の審査においては長期間、安定的にごみの焼却ができるかどうかで判断を行い、より技術力の高い事業者を選ぶことに心がけた。

**問** 今後20年間の業務委託の結果を見ないと今回の評価の検証はできないのか。

**答** 今後は、落札者と基本協定、基本工事請負契約、業務委託契約をむすんでいくこととなり、工事請負契約については、仮契約を締結したのち、契約議案を上程する。まずは落札者より提案されたことがしっかりと実行される契約書をつくりあげ、疑義が生じた際のリスク分担についても、両者で納得した上で契約することとしている。

**問** 今後のごみ分別方法については。

**答** 新しい焼却施設の焼却炉はストーカ方式を採用しており、焼却可能なものは従来と変わらない。

**結果：全会一致で可決**

その他、建設常任委員会に付託された事件は、全て全会一致で可決すべきものと決しました。



- 委員長 越澤 二代
- 副委員長 長 俊明
- 委員 貴船 斉
- 田村 順玄
- 藤重 建治
- 前野 弘明
- 松本 久次
- 山田 泰之



岩国錦帯橋空港PRキャラクター ソラッピー

**議案第11号 平成27年度岩国市一般会計予算**

**問** 玖珂・周東総合支所の候補地選定について、住民目線はどのように反映されているか。

**答** これまでも地域審議会で説明し、住民目線でご意見を伺うのが基本的考え方。委員の皆様もそれぞれの立場で参加されており、その中でご意見を伺うのが重要と考えている。

**結果：賛成多数で可決**

**議案第65号 岩国市一般職の給与に関する条例**

**問** 今回の改正は平均2%の給与引き下げとなる。現在の経済情勢に逆行しているのではないか。

**答** 人事院勧告では3年間の減給保障がある。この間に様々な考え方も取り入れ給与のあり方を検討していく。

**結果：賛成多数で可決**

その他、総務常任委員会に付託された事件は、全て全会一致で可決すべきものと決しました。



- 委員長 河合 伸治
- 副委員長 広中 信夫
- 委員 石原 真
- 石本 崇
- 植野 正則
- 小川 安士
- 重岡 邦昭
- 細見 正行

## 議員提出議案第2号

# 地方創生総合戦略調査特別委員会の設置について

次のとおり特別委員会を設置することについて、地方自治法（昭和22年法律第67号）第109条及び岩国市議会委員会条例（平成18年条例第310号）第6条の規定に基づき、市議会の議決を求める。

平成27年3月23日

提出者 岩国市議会各派代表者9名連名で

- 1 本議会に、地方創生総合戦略調査特別委員会（以下「特別委員会」という。）を設置する。
- 2 特別委員会の委員は、9人をもって構成する。
- 3 特別委員会は、次に掲げる事件についての調査を行う。
  - (1) 岩国市総合戦略に関すること。
  - (2) その他、岩国市におけるまち・ひと・しごと創生に関するもののうち、特別委員会が必要と認めるもの
- 4 特別委員会は、議会の閉会中も調査を行うことができるものとし、調査終了まで継続して調査を行うものとする。

### 提案理由

まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する諸問題を調査するため、地方創生総合戦略調査特別委員会の設置を提案するものである。

委員長	阿部 秀樹		
副委員長	桑田 勝弘		
委員	植野 正則	小川 安士	
	武田伊佐雄	前野 弘明	
	松川 卓司	丸茂 郁生	
	三原 善伸		



にぎわいの錦帯橋

## 編集後記

3月議会は平成27年度を方向づける大切な予算、議案を議決する議会であります。岩国駅周辺整備事業など、大型事業も開始されます。施政方針で市長は、本市の人口ビジョンを踏まえた今後5カ年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた地方版総合戦略を策定すると示されています。議会は市民に代わって行政を監視する地方自治の重要な役割を担っています。議会も策定に関わり、行政との両輪を果たしてまいります。

いわくに市議会だより編集委員会



委員長	渡辺 和彦
副委員長	中村 豊
委員	貴船 齊
	重岡 邦昭
	田村 順玄
	広中 信夫
	山田 泰之
	山本 辰哉